

サレジオ工業高等専門学校  
総合メディアセンター報  
Reports of the Media Center

第 8 号

特集「サレジオ高専から広がる技術の輪」

Mar. 2019  
Media Center, Salesian Polytechnic

## 巻 頭 言

本年度四月から総合メディアセンター長を拝命しました。前センター長は在任期間も長く多くの功績を残しましたので、自分が務めてよいのかという葛藤もありました。しかし、良い伝統は引継ぎつつ自分の持つ強みも生かしていきたいと考えています。さらにメディアセンターとしての様々な役割を「ユーザーの目線」に立ち推進していく所存でいます。

さて、総合メディアセンター報も第8号を発刊する運びとなりました。二年ぶりの発刊になりますので、喜ばしい限りであると同時に安堵している次第です。ご協力頂いた教職員および学生にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

特集のテーマは「サレジオ高専から広がる技術の輪」です。技術の輪には繋がりという意味を込めており、このセンター報を通じて近隣地域にもその輪を広げていくことができると考えています。

一般記事について順に見ていきます。まずは国語をご担当されている後藤先生よりご寄稿頂きました。文豪の作品をどのように授業で紹介していくのか書かれており、授業展開の参考になります。また、心理学をご担当されている中根先生にも哲学がどのように技術を考えてきたのか、技術者教育を行う者にとっても大切な視点で語られています。情報工学科の宇都木先生には、3Dコンテンツの制作技術について、新たな可能性をご教示頂きました。

今回は新しい試みとして学生の記事も掲載しています。若者ならではの瑞々しい考えが伝わってきますので、ぜひ目を通して欲しいと思います。

連載コラムとしては博物館を紹介する「博物館探訪」を掲載しました。また、電気工学科の米澤一孝先生からは「西郷どん」にゆかりのある東京の痕跡を紹介するコラムを特別寄稿して頂きました。2018年の大河ドラマをご覧になっていなくとも興味が湧く記事になっています。

総合メディアセンター報の発刊も第8号まで伸ばして参りました。この十年で情報技術は大きく進歩し、またスマートフォン等の普及により人々とメディアの関わりは劇的に変化しました。このように総合メディアセンターを取り囲む環境は大きく様変わりしており、それに比例して本センターも学内で対応すべきことが増えてきています。本誌はメディアに関する様々な情報を発信し読者の皆さまと本センターを繋ぐ役割を果たしていく所存です。

2019年3月20日  
総合メディアセンター長  
佐藤 豊

# も く じ

## 総合メディアセンター報 第8号

ページ

巻頭言	総合メディアセンター長 佐藤 豊	1
特集 「サレジオ高専から広がる技術の輪」		
研究室を訪れて、見つけた目標	4年電気工学科 風斗春来, 電気工学科 山下健一郎	4
赤外線カメラ化された汎用一眼レフカメラの生体計測に関する研究	電気工学科 菅野峻矢, 電気工学科 吉田慧一郎	5
これからの義務教育について	4年生機械電子工学科 安部多久見, 一般教育科 山館 順	9
生の哲学から考える技術	一般教育科 中根弘之	11
「読むこと」の指導に関する一考察	一般教育科 後藤志緒莉	13
三次元計測を利用した3Dコンテンツ制作の試み	情報工学科 宇都木修一	15
内田百閒と軽便鉄道	一般教育科 山館 順	17
コラム		
【連載】「メディア」博物館探訪（第11回）日本ラジオ博物館（長野県松本市）	一般教育科 山館 順	22
【連載】「メディア」博物館探訪（第12回）NHK放送博物館（東京都港区）	一般教育科 山館 順	23
【連載】図書館の本棚から（第11回）「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「サラサーテの盤」	一般教育科 山館 順	24
【連載】図書館の本棚から（第12回）「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「特別阿房列車」	一般教育科 山館 順	25
【コラム メディアを歩く】		
東京にある「西郷どん」の痕跡（1）靖国神社にみる<薄情な>薩長同盟	電気工学科 米澤一孝	28
東京にある「西郷どん」の痕跡（2）大田区洗足池畔 西郷隆盛の留魂碑	電気工学科 米澤一孝	29
資料編（各種データ）		
図書館・情報館関連		
(1) 入館者数		32
(2) 図書館蔵書冊数		33
(3) 図書館貸出冊数		34
(a) 分野別貸出冊数		34
(b) 月別貸出冊数		34
(4) PC教室利用状況		35
PC教室（122, 123室）利用状況		35
編集後記	総合メディアセンター報 編集長 山館 順	36

## 特集 「サレジオ高専から広がる技術の輪」

研究室を訪れて、見つけた目標

電気工学科 風斗春来, 電気工学科 山下健一郎

赤外線カメラ化された汎用一眼レフカメラの生体計測に関する研究

電気工学科 菅野峻矢, 電気工学科 吉田慧一郎

これからの義務教育について

機械電子工学科 安部多久見, 一般教育科 山館 順

生の哲学から考える技術

一般教育科 中根弘之

「読むこと」の指導に関する一考察

一般教育科 後藤志緒莉

三次元計測を利用した 3D コンテンツ制作の試み

情報工学科 宇都木修一

内田百閒と軽便鉄道

一般教育科 山館 順

## 研究室を訪れて、見つけた目標

風斗 春来<sup>†1</sup>, 山下 健一郎<sup>†2</sup>

### 1. はじめに

私は将来、物づくりに携わる仕事に就きたいと考え、多くのエンジニアや研究者を輩出しているサレジオ工業高等専門学校（電気工学科）に入学しました。一年生で基本的な電気工学の知識を学び、より電気工学に興味を持ち始めました。二年生の夏、食堂の窓から見えた巨大な風力発電装置に強く引かれました。これまで、電気回路や電気磁気学などの基礎的なものについての学習を行っていたが、その日から独学で再生可能エネルギーを学ぶようになりました。本校のメディアセンターには、多くの再生可能エネルギーに関する書物があります。私はその数冊を手に取り、まずは本を読むことから勉強を始めました。三冊目を読み終えたころ、独学では限界があったため、再生可能エネルギーに関する研究を行っているエネルギー変換研究室（山下研究室）を尋ねました。これをきっかけに、研究室を訪れる回数が増える度に資料や装置に触れたり、見たりする機会を得ることができました。四年生となった今では、実際に行われている研究の一部を手伝っております。

その研究の一部を次に紹介します。

### 2. 可変翼枚数風力発電装置

私がエネルギー変換研究室で最も興味を持った研究テーマが可変翼枚数風力発電装置であり、以下にその内容を示します。風力発電装置はプロペラ型が一般的であり、その翼枚数の違いによって、次のような特性があります。

①翼枚数が多い風車：始動性が高く、効率が低い  
②翼枚数が少ない風車：効率高く、始動性が低い  
可変翼枚数風力発電装置とは①、②それぞれの長所を持ち合わせている風力発電装置である。図1に可変翼枚数風力発電装置の構成を示します。同装置は、図1に示すように同じ形状の三

枚翼ロータを同一シャフト上に直列に接続したものであり、ブレードの重ね角（図1参照）を調節することにより、正面から見た翼枚数を可変することができる装置である。同装置は、始動時に回転しやすい（始動性が高い）六枚翼で始動し、通常運転時には効率の高い三枚翼風車に自動的に変形する。これにより、高い始動性と高い効率を持つ風力発電装置を実現することができます。また同研究を発展させたものに、可変ピッチ機構を有する小型風車用ガイドベーンのプロトタイプという研究があります。この研究では、電気学会産業応用部門大会のヤングエンジニアポスターコンペティションで優秀発表賞を受賞していると、伺っています。私も先輩方のように研究に尽力し、大きな成果あげたいと思いました。

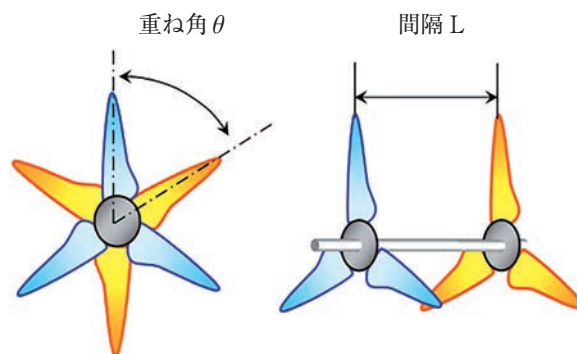


図1 重ね角 $\theta$ 、ロータの間隔 $L$

### 3. まとめ

本校では、五年生から卒業研究を開始し、一年間で研究成果をまとめます。専攻科に進学する場合には、さらに二年間の研究時間を設けることができます。私はこれに先立ち、四年時に研究室を訪れることによって、前述したように様々なことを学ぶことができました。中学生の時、ものづくりに興味があり、こうした仕事に就きたいという私の夢は、今再生可能エネルギーに関する仕事に就きたいという具体的な夢へと変わっていったのです。

### 文献

1) 「ここまできた風力発電 改訂版」(株)工業調査会 1998

†1 4年電気工学科

†2 電気工学科

Dept. of Electrical Engineering

# 赤外線カメラ化された汎用一眼レフカメラの生体計測に関する研究

菅野 峻矢, 吉田 慧一郎<sup>†</sup>

## 1. はじめに

近年, カメラの性能向上により可視光線下での撮影のみならず, 赤外線下での撮影を行う需要が高まって来ている. 例えば, 夜間の監視カメラや自動車の安全運転に関わる場面, 研究分野においては赤外線を用いて, 毛細血管の様子をとらえるなどといった例があげられる. このように, 赤外線下で撮影された画像・映像は可視光の影響を受けにくいいため, 安定した情報の取得が可能であると考えられる. そのため, より簡便に赤外線下での撮影ができる技術が求められている.

現時点, 赤外線撮影を行うためには, 専用に設計された赤外線カメラが必要とされるが, 操作性やポータブル性に問題が生じる. そこで本研究では, どのような人でも日常の写真撮影の要領で赤外線写真を撮影すること, さらに高精細な画像・映像を取得できることを目標とした赤外線カメラの検討を行っている. 研究用に開発された赤外線カメラを用いることは避けたため, 市販の汎用一眼レフカメラを改造し, 主に腕の血管を観察するための赤外線画像の取得を行った.

## 2. 汎用一眼レフカメラを改造して使用する利点と効果習環境の変化

### ①画素・高画質

汎用一眼レフカメラの画素数 1800 万～2800 万画素で, 研究用赤外線カメラの画素数の 10～100 万画素と比較すると非常に大きい. また, CMOS センサーのサイズも大きく, 画素ピッチも比較的小さいことから汎用一眼レフカメラは鮮明に細部までの撮影が可能であると考えられる.

### ②簡単な操作

汎用一眼レフカメラの市場は一般の人に向けてされており, 誰でも簡単に使うことが可能である. そのため教育・研究分野での有効活用が十分可

能である.

### ③高精度オートフォーカス

近年の一眼レフカメラのオートフォーカスの性能は極めて精密であり, 素早く, 正確にピントを合わせることが可能である. また, 被写体の色や顔を検出し, ピント位置を自動で被写体に追従させる機能も存在するため, 動体に対するピントの正確な追尾も可能であり, 比較的安価にこの機能が使用できる.

### ④レンズの種類

市販品のレンズのラインナップは超広角, 広角, 標準, 望遠, 超望遠とさまざまな種類が市販されている. 広角はより広い視野角で写すことができ, 望遠は遠くの被写体を大きく写すことが可能である. また, それらの種類の中でも軽量化に特化したものや, 画質に特化したものなど非常に多くの種類が存在する. レンズ種類が多いことで, 撮影環境や撮影したいものに臨機応変に対応でき, さまざまな構図で撮影が可能となる. またこれらのレンズは, 大型家電量販店で多く扱われていることから, だれでも手軽に導入をすることも可能である.

## 3. 原理

カメラが画像を撮る仕組みを Fig.1 に示す. レ

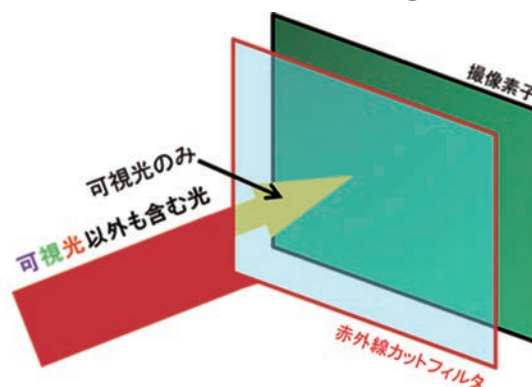


Fig.1 センサー付近の模式図

ンズから入った光はシャッターを切った瞬間に撮像素子に当たる. この時, 撮像素子上で像が結像され, 画像データに変換される.

レンズからは可視光線, 可視光線以外を問わ

<sup>†</sup> 電気工学科

Dept. of Electrical Engineering

ず入射するが、近年の汎用一眼レフカメラの CMOS センサーの性能向上は著しく、近赤外線 を鮮明に映すことが知られている。近赤外光を取り入れると色調が赤寄りに狂うため、赤外線カットフィルターによってカットする。そこで汎用一眼レフカメラで赤外線 を撮影可能にするために、天文写真分野において、恒星等が発する赤外線 を撮影するための改造を応用し、赤外線カットフィルターを撤去する改造を行った。

#### 4. 実験

本研究では、汎用一眼レフカメラの入門機種である Canon 製 EOSkiss x6i の改造を行った (Fig.2).

##### 4.1. 改造作業

著者が行った kiss x6i の改造を紹介する。カメラ背面のカバーと、中の基盤を取り外し、センサーユニットを摘出した改造途中のカメラを Fig.2 (a) に示す。



(a) (b)  
Fig.2 一眼レフカメラの改造

CMOS センサーユニットを摘出したのち、赤外線カットフィルターを固定している金具を外す。すると赤外線カットフィルターが取れるので、フィルターを除去し、金具を締め元に戻す。その後、CMOS センサーユニットをカメラ本体にもどす。

赤外線カットフィルターを除去した CMOS センサーユニットを Fig.2(b) に示す。

(b) の画像中、矢印①はセンサー、矢印②は赤外線カットフィルターである。

##### 4.2. 赤外線撮影

すべて組み戻した後、赤外光以外 (800 [nm] 以下) を遮断するフィルター (FUJIFILM, IR フィルター 80 号<sup>1)</sup>) を EF50mm f/1.8 STM に取り付けて撮影テストを行った。

実験では、室内で撮影を行ったため、波長 940[nm] の近赤外光のみを発する LED 照明を照射して撮

影した。

撮影した画像は Canon Digital Photo Professional を用いて色調補正と露出補正を行った。撮影した写真を Fig.3(a) に示す。また Fig.3 (b) に比較として、同じ撮影条件で、未改造且つ一世代前の機種 (Canon 製 EOS kiss X5) を用いて撮影した。非改造の一眼レフカメラにおいて像が写らないのに対し Fig.3 (b)、改造一眼レフカメラでは像が写ったことから Fig.3(a)、本改造によって赤外線カメラ化したといえる。



(a) (b)  
Fig.3 未改造一眼レフカメラとの比較

##### 4.3. 赤外線撮影による腕の血管の撮影

本研究は赤外線カメラ化改造一眼レフカメラを用いて腕の皮膚内の組織 (主に血管) を映し出すことに成功している (Fig.4)。比較のため、改造したカメラの赤外カットフィルターを外した状態かつ可視光線下で撮影したものを Fig.5 に示す。



Fig.4 赤外光下で撮った腕の様子

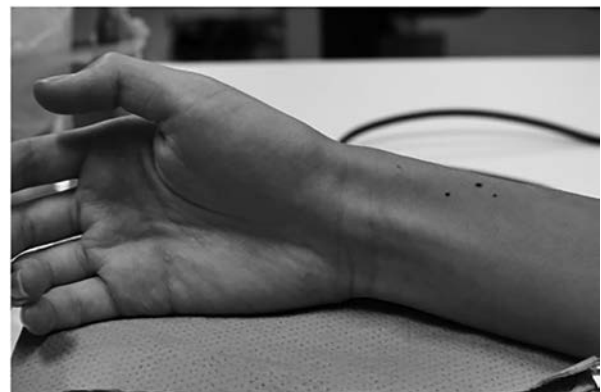


Fig.5 可視光 (蛍光灯下) で撮った腕の様子

#### 4.4. 機材更新に関して

我々が改造したEOSkiss x6i は、機能面の劣化・故障、撮影画質の陳腐化等の観点から上位機種である Canon 製 EOS5DMarkIII を導入した。

なお改造は、技術面の観点から業者に委託した。改造内容は我々が施したものと同等である。

Kiss x6i からの主な改善点としては、

- ・ノイズ量の低下
  - ・解像度の向上
  - ・AF 精度の向上
- があげられる。

比較として Fig.6 に EOSkiss x6i で撮影した腕の拡大画像を、Fig.7 に EOS5DMarkIII で撮影した腕の拡大画像を示す。なおこの撮影は、EF24-70 f2.8L II USM を用いて図中の設定と同じ環境で行った。また変化が微細なため、kiss x6i の拡大画像を Fig.8(a) に 5DMarkIII の拡大画像を Fig.8(b) に示す。



SS1/6 F2.8 ISO6400 70mm

Fig.6 kissx6i で撮影した腕の様子

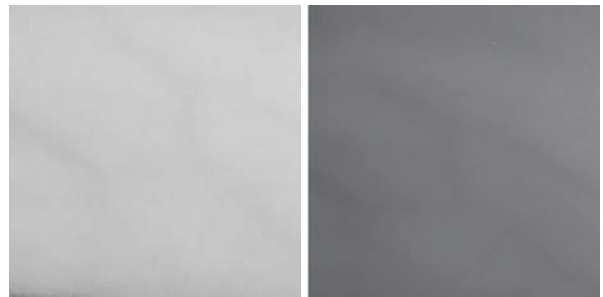


SS1/60 F2.8 ISO500 70mm

Fig.7 5DmarkIII で撮った腕の様子

x6i の ISO 感度の数値が 5DIII より非常に大きくなっているが、これは 5DIII の受光量が x6i より多いことを表している。また感度の数値は小さいほうがきれいな画像が取得できる。

機材更新により、画像に含まれるノイズの大きさや数が大幅に減少し、滑らかな画像が得られるなど著しい画質向上が確認できた。また血管に関しても x6i の場合輪郭が不鮮明なのに対し 5DIII では鮮明に輪郭が写ることも分かった。オートフォーカスの性能も確認したところ、x6i がピントを合わせることができなかったが、5DIII では正確に合わせることができた。



(a) Fig.6 拡大

(b) Fig.7 拡大

Fig.8 血管の撮影の様子

## 5. 生体情報取得に向けた取り組み

4.3 節で述べたように、機材を更新したことによってより簡便且つ高画質に撮影が可能になった。試験運用を兼ねて、運動前と運動後の血管の状態の比較を行ったことを報告する。

### 5.1. 運動前と運動後の血管の観察

今回、スキューバダイビングの前後での血管の変化を観察した。撮影した画像を Fig.9 に示す。



SS1/10 F4.5 ISO800

SS1/400 F4.0 ISO160

(a) 潜水前

(b) 潜水後

Fig.9 潜水前と潜水後の血管の変化



なお使用レンズはEF24-70 f2.8L II USMで、血管が確認しやすいように黒色部分を強調させる加工を施した。

Fig.9より、潜水前には多くの血管が確認できたが、潜水後には潜水前より目視できる確認が少ないなどの変化が確認できた。

## 5.2. 展望

本実験により、当初の目的である「血管を詳細に観察する」ことは達成できたといえる。また、画像取得に際して特別な設備を必要とせずに詳細な画像を取得できることが分かった。しかし、Fig.9の撮影は揺れの激しい船舶上で行ったため、ブレが生じることもあり、高品質な画像の取得が困難であった。このような揺れの激しい環境や、曇天時の撮影を得意としないため、そのような環境に対応した高品質な撮影の方法を考察する必要があるが生じた。

## 6. まとめ

本実験において赤外線改造一眼レフカメラで血管の造影を行うことが可能であることが判明した。さらに一眼レフの上位機種を用いることでさらに高画質での撮影が可能となることが分かった。

必要としていた機能の向上に関しては全て達成したため、今後は一眼レフカメラの携帯性を生かしたリアルタイムな観察・測定や、改造一眼レフカメラの用途の拡張・検討などを進めていく予定である。

## 文 献

- 1) FJIFILM “富士フィルム光学フィルター TRY ECETYL CELLULOSE” p.11  
URL: [http://fujifilm.jp/support/filmandcamera/download/pack/pdf/ff\\_opticalfilter\\_001.pdf](http://fujifilm.jp/support/filmandcamera/download/pack/pdf/ff_opticalfilter_001.pdf) (2018年10月26日)

## これからの義務教育について

安部 多久見<sup>†1</sup>, 山館 順<sup>†2</sup>

### 1. 現代の義務教育について

インターネットが発展した現代、中高生の使用する SNS 上ではデマの拡散や無断転載などを始めとしたトラブルが頻発している。その原因は義務教育が時代に適応できていないからではないかと私は考える。そのため本稿では学習指導要綱に問題を絞って検討を行う。

それでは、現代の義務教育に何が足りないのか?そして改善には何が必要なのか?それについて考えてみた事をここに記す。

現在私が考える義務教育に不足している内容について少なくとも二点を挙げる事が出来る。それは法律に関する学習とインターネットリテラシーに関する学習である。

法律の知識は無断転載など著作権関連や就職時点におけるブラック企業に関する問題を筆頭に、さかのぼって義務教育課程修了後に一般的な社会常識として求められるようになり、インターネットリテラシーの必要性に関しては、生活に不可欠と考えられるまでに普及している。

しかし平成 29 年 7 月に告示された中学校までの学習指導要領では、そのどちらも主要な内容としては扱われていない。

現状のままではネット上で無自覚に事件に巻き込まれ加害者もしくは被害者となる恐れのある人は絶えないだろう。

### 2. 義務教育を改善するには

では、義務教育の内容を改善するにはどのような方法があるか?

本稿では、法律やインターネットリテラシーを教育内容に組み込む際に考えられる問題点とその解決策について検討した。

#### 2.1. 問題点について

義務教育新たなカリキュラムの作成において、様々な手法が想定されるが、本稿では学習内容に関する整理を行わず、教育内容の分量を増やす場合について考える。

私が考える義務教育に必要な内容である、法律とインターネットリテラシーに関する学習は共に多くの時間を要する。

そのため両科目で週 1 時限の通年若しくは半期で行う新科目として扱う等の対応が必要になると考える。

現在でも教員・学生共に余裕があるとは言えない状況であるのに更に負荷を強めてしまえばどうなるか?その結果はつまるところ、新たな学習内容を組み込む事ができなくなる。

本稿では、その原因の大部分を占める "時間不足" という課題に絞って検討した。

#### 2.2. 問題を回避する方法について

では、必要な分の時間を作るにはどうすれば良いだろうか?時間を操れるわけではないので選択肢は自ずと限られてくる。現状私が思いつくのはそもそもの時間を増やす方法と必修性の薄い箇所から時間を持つてくる方法の2つのみである。

そもそもの時間を増やす方法とはつまり、義務教育の年数を増やす方法である。例えば中学校 6 年制にするなどがこれに当たる。私はこれを行うことでの長期的利点は手間やデメリットを補って余りあると考えているが、現実的にはむずかしい。

次に必修性の乏しい科目から時間をもってくる方法について考察したい。現在の義務教育における学習指導要綱のうち、所謂 "教養や専攻科目

†1 4 年生機械電子工学科

†2 一般教育科

General education

"にあたる内容を、他の科目との関連性を考慮し合併・移行・省略することで既存の授業時間数を減らすことである。

具体的には古文・漢文や、技術におけるプログラミングなどが教養や専攻科目に該当すると考えられ、物語文と道徳教育など関連性が考えられる単元と科目間で合併・移行を行うことで纏まった空き時間を生成する。既存単元を減らすことに対する補填としては、その分野の存在と学習方法を教え、学習方法を身近に感じさせるなどアクティブラーニングを用いる方法が考えられる。

### 3. 結論

以上より、義務教育を改善するためには現行の学習指導要綱における学習内容を見直して纏まった空き時間を捻出する必要があるという結論に至った。

### 4. 終わりに

現代の日本は教育以上に逼迫している問題があると私は考えている。義務教育の内容が変更されるには、中央教育審議会が実施されてから(中学の場合で)移行期間を含めて平均6年間の準備期間を要するのであるが、試しに2018年から数えたとしても6年後の2024年度まで日本は社会の現状を維持若しくは改善できているかどうか私は強く不安を感じている。

しかし、義務教育の改善が長期的に見た我が国の未来をほんの僅かでも良くする事を信じ、私見を述べさせていただいた。

### 文 献

- 1) 文部科学省(2017)「中学校学習指導要綱解説 社会編」, < [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018\\_3\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_3_1.pdf) >
- 2) 文部科学省(2017)「中学校学習指導要綱解説 技術・家庭編」, <[http://www.mext.go.jp/component/a\\_](http://www.mext.go.jp/component/a_)

[menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018\\_9\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_9_1.pdf)>

- 3) (2017)「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂ポイント」, <[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/16/1384662\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2017/06/16/1384662_2.pdf)>
- 4) (2017)「今後の学習指導要綱改定に関するスケジュール」, <[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384662\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384662_1_1.pdf)>
- 5) 「世界の人口ピラミッド(1950～2100年)」, <<https://www.populationpyramid.net/ja/日本/2018/>>

## 生の哲学から考える技術

中根 弘之<sup>†</sup>

技術を哲学的思索の俎上に載せた最初の人物は、おそらくアリストテレスであろう。アリストテレスは、実践的な  $\tau\epsilon\chi\nu\eta$  (テクネー) を学問的な知識である  $\epsilon\pi\iota\sigma\tau\eta\mu\eta$  (エピステメ) から区別し、さらに  $\phi\upsilon\sigma\iota\varsigma$  (ピュシス) からも区別する。これらの区別によってアリストテレスは、技術を、必然的に生成する事柄ではなく、かつ、内在的な生成の原理を持たない領域に位置付けたのである。アリストテレスの技術に対する定義以降も、哲学において種々の定義づけ、価値づけが技術一般に対してなされたが、哲学の歴史において、技術は下位概念に属してきた。なぜなら、真なる知の探究という理論的な哲学の欲求に技術は寄与することもなく、加えて、ものごとの本質的ではない、いわば偶然的で付帯的な領域にしか技術は妥当しないと考えられたからである。そのため哲学において、我々の生活に様々な豊かさをもたらす技術は、久しく外縁部に押しやられていたといえることができる。

こうした傾向が、科学に裏打ちされた技術の実践的発展が現実に観取できるものとなった19世紀に改まるのは、偶然ではないだろう。 $\tau\epsilon\chi\nu\eta$  のラテン語訳である *artis* 概念に基づく「芸術哲学」、「芸術論」の地位は、明らかにアリストテレスの時代よりも向上している。それは、我々が一般的に理解する技術とは大いに趣を異にするが、それでも単に付帯的問題として扱われていた時代と比べれば、大いなる進歩であるといえるかもしれない。そしてさらに、19世紀後半から20世紀に至ると、技術の問題はより重要な位置づけを哲学の中で獲得することになる。

技術に対して親和的に接近を図る哲学学説は、K. マルクスの唯物論に限らず、生の現実に立

脚した哲学の潮流に容易に見出すことができる。「プラグマティズム」の系譜に属する哲学もその一つであるが、本論で中心的に論じるのは、「生の哲学」と呼ばれる哲学諸説である。「生の哲学」に主体的に属した、あるいは他からその名の下にまとめられた哲学者達は、生の現実に立脚しつつ哲学した人々であり、歴史的・社会的事象、文学・芸術作品といったものを哲学の対象に含みこんでいる。そうした哲学者中の一人が、大著『西洋の没落』の著作者、O. シュペングラーである。

シュペングラーの『人間と技術』と題された論考は、1931年に書かれた小品でありながら、興味深い示唆に満ちている。彼によれば、技術とは、「生の戦略」に他ならない。彼は、多くの生の哲学者がそうであるように、「自由に動く動物の生は戦い」(傍点引用者)であることを認め、他なるものを打ち負かしつつ、自らを主張する存在が人間であるとする。技術は、この生の闘争のために生まれた戦略であり、技術によって作られた事物に限定されるものではない。なぜなら、可塑性に富んだ手は技術を現実のものとするが、その手は技術の産物を手放しはしないからである。技術は、人間の生をどこまでも拡大し、高揚させる契機であり、人間の生から切り離されるような事態を考えることができない。シュペングラーによれば、人間の生の高揚こそが技術の本質なのであり、それ以外ものではないのである。

こうしたシュペングラーの技術論は、21世紀を生きる我々から見た時、やや短絡的なものに思われる。今日の我々は、どこまでも進む技術の発展に、生を高揚させるどころか、その発展に押しつぶされるような気持ちや、終わりなき技術の発展に困惑を少なからず覚えるからである。こうした技術の発展に対する漠然とした不安、不満、あるいは困惑はどうして生じるのであろうか。

<sup>†</sup> 一般教育科  
General education

シュペングラーの考察にそのヒントは隠されている。今日、我々が技術の発展に漠然とうす暗い感情を覚えるのは、人間の生を高揚させるために存在していたはずの技術が、生の《外部》に向けられるのではなく、人間の生の《内部》に向けられてしまっているということに原因があるのである。その具体例は、生命倫理の諸命題に現れている。我々人間は、種々の技術を進展させ、人間の生をもその対象にしてしまった。近年、話題になっているものを一つ上げれば、研究目的に限定されているとはいえ、「ゲノム編集」の技術が人間の受精卵にも適用されるような事態は、その一つの典型を示すだろう。そしてまた、AI技術の発展により、生産性向上の名のもとに、AIが人間の職を奪う、あるいは人間の活動の場を制限するような事態も、その事例の一つかもしれない。もともと「生の戦略」として発展してきた技術が、逆に人間の生を縮小させ、人間の人間性を無化させるような事態が、今日では当たり前のように生じているのである。

多くの場合、新しい技術が生まれれば、その技術は実践されるべきであるし、実践されることが望ましいという錯覚を起こしがちである。新たな技術が生み出され、その是非を問うガイドラインが策定された瞬間から、いかにしてガイドラインの規制をすり抜けるかを人は真剣に議論する。詳述する余裕はないが、「新型出生前診断」（無侵襲的出生前遺伝学的検査）をめぐる騒動などはその典型であろう。技術が真に人間の生を高揚させるものであるならば、新しい技術の実践は確かに望ましいものとなるかもしれない。しかし、現実には、そうではなく、きわめて短期間にしか有効性をもたない経済的功利性や、大衆的欲求充足のための技術が、人間の生をいわば切り売りしつつ絶え間なく生み出され、消費されるような事態が連続し、我々を疲弊させるのである。

このような事態は、シュペングラーと同じく「生の哲学」を代表する思想家F. ニーチェの言葉を用いるなら、「ニヒリズムの蔓延」と表現できるかもしれない。シュペングラーも、「イギリ

ス由来の唯物論」の価値観として、「最大多数の幸福」に対する「有用」が何より優先されるが、その幸福の中身が「何もしないということ」に他ならないことを喝破している。そして人間の生の価値が失われた世界で、「パンとサーカス」に踊らされた大衆的精神が涵養され、技術はそこでは単なる消費物になるのである。人間の生そのものが無価値化すれば、「生の戦略」である技術もごく当然のように無価値化する。無価値である以上、技術は、どのような制限もなく拡大使用可能なものとなり、人間の具体的生を離れ、時には人間の生に反逆するような技術も容易に肯定されることになる。今日の状況を鑑みると、我々の世界の人間の生と技術の発展がこのような無価値なものに成り下がっているのではないかと、「生の哲学」の諸言説を頼りに問いを立てることは、重要な意味を持つように感じられてならない。主体的に「パンとサーカス」に踊らされる生を選択している自覚があるならばまだしも、無価値化し、単に享乐的なものに成り下がった生を生きるほかない状況に追い込まれているとすれば、それはなんと悲劇だろう。そしてその時、その無価値な生を包み込む「鉄の檻」を形作るために技術が用いられるとすれば、シュペングラーやニーチェと同時代を生きたM. ウェーバーならずとも、「心をなくした専門家」となった技術者を、端的に「末人」と呼ばれる人間をその場に見出すに違いない。そのような明日が来ないように、心ある若き技術者の教育に、我々は心を尽くすべきであろう。

## 文 献

- 1) アリストテレス、『ニコマコス倫理学』（上）（下）、高田三郎 訳、岩波書店、1971年
- 2) O. シュペングラー、『技術と人間』、駒井義昭、尾崎恭一 訳、1990年
- 3) E. フィンク、『ニーチェ全集 - 別巻 -』、吉沢傳三郎 訳、理想社、1963年
- 4) M. ウェーバー、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、大塚久雄 訳、岩波書店、1989年

## 「読むこと」の指導に関する一考察

後藤 志緒莉<sup>†</sup>

### A Study on Teaching of Reading

Shiori GOTO<sup>†</sup>

**概要** 本稿は、3年生の国語の授業で行った、文学史の授業についての報告である。授業実践を振り返り、学生の現状と指導者の課題を明らかにし、今後の「読むこと」の指導の改善につなげたいと考える。

#### 1. はじめに

本校の3年生の国語では、半期に1～2時間、文学史を取り扱っている。今年度は、芥川龍之介と夏目漱石について、その略歴と代表作について学習した。本稿では、今年度の9月に行った夏目漱石に関する授業実践を振り返り、「読むこと」の指導における今後の課題とその改善案について述べる。

今回の授業を行うに当たり、「夏目漱石の作品を読んだことがあるか」という問いかけを学生に行ったところ、読んだことのある学生は、各クラス2～3名程と非常に少ないことがわかった。小学校や中学校で「走れメロス」や「蜘蛛の糸」を読んでいる学生も多いが、日常生活で自らすすんで近代文学を手取る学生は極めて少ないのである。そこで、今年度は、文学史の授業の中で具体的な作品を取り上げながら、作家と作品について学ぶこととした。

今回、夏目漱石を取り上げることとした理由には、日本の近代を代表する作家であるということと、高校生の多くが、国語の授業の中で最低でも1作品は読んでいるということがある。本来であれば、漱石の代表作である「三四郎」や「こころ」等を読むことが望ましいのだが、90分の授業の中でそれらの作品を読むことは難しい。そこで、高等学校の国語の教材として複数の教科書に採

録されており、読者の想像力を喚起させながら読むことのできる「夢十夜」を取り上げることとした。

「夢十夜」は、「夢」を題材としていることから現実離れした内容が多くある。しかし、そのことが逆に、読者の想像力を喚起させる。学生には想像力を働かせて、感じたことや考えたことを、絵や文章で自由に表現させたいと考え、今回は「第一夜」と「第六夜」のうち、印象に残った方を選択し、クラスの友人に魅力を紹介するための「ポップ」を作成する言語活動を設定した。作品の魅力を伝えるために、作品を何度も読み返し、主体的に思考することが、今回の授業のねらいである。

#### 2. 「夢十夜」について

「夢十夜」は、明治41(1908)年に「朝日新聞」に掲載され、明治43(1910)年に刊行された『四編』に「永日小品」などとともに収録された。

橋本暢夫(1991)の調査によると、「夢十夜」が旧制中等学校の読本に初めて掲載されたのは、大正10年であることがわかる。また、現在使用されている高等学校の国語総合の教科書を調査したところ、「夢十夜」は全33種の教科書のうち、10種の教科書に掲載されていた。「夢十夜」は、教材として長く教科書に掲載されている作品だと言えるだろう。

<sup>†</sup> 一般教育科  
General education

### 3. 授業について

授業は、次の展開で行った。

対象：3年生 全学科

実施時期：2018年9月

時間：1時間（90分）

目標：近代の代表的な作家とその作品について知る。

近代文学に触れ読書生活を豊かなものにする。

学習活動

- ①夏目漱石について知っていることを挙げる。
- ②夏目漱石の経歴と代表作について学ぶ。
- ③「夢十夜」より「第一夜」と「第六夜」を読む。
- ④「第一夜」と「第六夜」のうち、印象に残った方を選び、印象に残った点や感じたことを自由に表現する。
- ⑤「第一夜」と「第六夜」の内容に関する学習課題に取り組む。
- ⑥自らが選んだ物語の魅力やあらすじを紹介するための「ポップ」を作成する。
- ⑦作成したポップをもとに、物語の魅力やあらすじを友人に紹介する。
- ⑧授業の振り返りを書く。

⑤の学習課題では、作品の主題に迫ることができるように、次のような課題を設定した。

（第一夜）

- (1) 「第一夜」において、どういう点に夢らしい特徴が表われているか。
- (2) 「百年はもう来ていたんだな。」とあるが、どのようなことによって気がついたのか。

（第六夜）

- (1) 「第六夜」において、どういう点に夢らしい特徴が表われているか。
- (2) 「ついに明治の木にはとうてい仁王は埋まっていないものだ」と悟った。」とあるが、「自分」は何をどのように悟ったと考えられるか。

作品を読んだ後に、物語の流れがつかめなかった友人に解説をしている学生や、「第一夜」の結末について意見を交換している学生がいたことが印象的であった。一方で、「ことばが難しく、読みづらい」という理由から、読むことを諦めてしまった学生も数名見られた。ポップを作る活動では、作品を読み返して、印象的なことばを探し

出したり、物語の世界を象徴するキャッチコピーを自分で考えたりしている学生が多く見られた。各クラスのほぼ全員の学生が時間内に仕上げることができたが、中には、作品の中のことばを抜き出しただけのものもあり、すべての学生が作品を読み返して、主体的に思考していたとは言えない結果となった。

### 4. 実践から明らかになった課題

学生の様子や学生が書いた振り返りから見出すことのできる課題は、以下の2点である。

1点目は、言語活動が目的化してしまったことである。「夢十夜」の本文を読み返し、思考するための手立てとして、ポップを作る活動を位置づけることが指導者のねらいであったが、実際には、「ポップをつくるために読む」という学習の構造となってしまった。このことの要因は、ポップを作成した後に、再度作品の読みに戻らなかったことにあると考える。また、作品の情景や内容を想像するために、今回の学習活動が適切であったか否かも、検討が必要であろう。指導過程の構造化と、そのことを学生にわかりやすく示すための工夫が今後の課題である。

2点目は、読書指導の工夫ができなかったことである。前年度は、文学思潮を取り上げて文学史の授業を行ったが、今年度は、作品に触れさせたいという思いから、著名な作家を一人ずつ取り上げて、その略歴と代表作を学習する方法をとった。授業で作品を読むことはできたが、その後の読書指導につながるような工夫はできなかった。

授業時数との兼ね合いもあるが、個人や班で作家を一人選び、図書館やインターネットを活用して、その作家や作品について調査し、発表するという学習の方法も考えられる。また、国語の授業内で学生が作成したものを、図書館に展示することも可能なのではないだろうか。今回の授業では実現できなかったが、読書指導の観点からも、今後は、図書館を活用した授業を積極的に行いたい。

### 文 献

- 1) 夏目漱石、『文鳥・夢十夜』,新潮社,1976年
- 2) 橋本暢夫,「中等国語教材史からみた夏目漱石」,『国語科教育』,第38集,pp.91-98,1991年

# 三次元計測を利用した 3D コンテンツ制作の試み

宇都木 修一<sup>†</sup>

## Attempt of 3D Contents Creation Using 3D Measurement

Shuichi UTSUGI<sup>†</sup>

**概要** 8年ほど前ににわかに盛り上がった3D（立体視）ブームは今や見る影もない。しかし、立体視は医療現場での使用が有望視されており、立体視技術の発展が望まれる。その立体視技術のすそ野を広げるべく、3Dコンテンツの新たな可能性を見出すための構想について述べる。

### 1. はじめに

2009年に公開された映画「アバター」のヒットを嚆矢として2010年には3Dブームが巻き起こった。それに合わせて3Dテレビなども随分と売りに出されていたが、今や新製品が出るようなこともなく、話題に上ることも全くなくなってしまっている。3Dテレビの失敗の理由としてしばしば挙げられるのが、コンテンツ不足である。まず、3Dに対応したコンテンツを制作するにはコンピュータグラフィックス（CG）で全てを制作するか、カメラによって撮影する場合は、レンズを2つ持つ特別なカメラを用いる必要がある。まず、CGを制作するには手間がかかり、気軽にはコンテンツを増やせない。あるいは、カメラで撮影する場合、2Dと同じ画質で立体視するためには撮影も表示も2倍の解像度を必要とするので、どうしても解像度の点で2Dよりも劣ってしまう。したがって、3Dには画質が劣ったとしてもそれを補う付加価値が求められることになるが、結局、わざわざ3Dにするほどのコンテンツというものを見いだせなかった。これらが、3Dブームが去った理由であろう。

ところで、筆者はこの3Dブームが巻き起こる以前からステレオ視に関する研究を続けている。ステレオ視は2台のカメラから得られた画像から、その画像に映っている物体とカメラの間の距離を計算によって求める技術である。平たく言えば、

人間が目で見ると距離感を得る作業を、コンピューターで再現しようとする技術である。距離計測ができれば形状の計測もできることになるので、ステレオ視で完全な距離計測ができれば、実際に存在する物体に対して、リアルなCGを自動的に作成することができる。このステレオ視の技術を使って3Dコンテンツを映像表現の一つとして、しっかりと根付かせることができないかと考えている。

### 2. 3Dコンテンツの利用

3Dコンテンツ、すなわち、3次元立体情報ならではの表現や情報伝達とはどのようなものか。実は、3Dコンテンツは視聴者が受け身になる映画やテレビには向いていない。3Dコンテンツによって伝えられる形状や奥行き感というものは、逆に能動的な操作を伴うことで伝えられる。物体の形状を把握しようとするのであれば、様々な角度から、時には手に取って観測してみたいものである。

能動的な操作となると、すぐに思いつくものにゲーム、そしてVR（バーチャルリアリティ）があるが、やはり立体視することが必須であるコンテンツでない限り、2Dで代用できるのであれば、ユーザーは2Dを選んでしまう。3DディスプレイやVRを用いることで最初に大きな「驚き」を獲得したとしても、次第に慣れてしまえば驚きは薄れていく。結局は、いろいろと障害があり面倒な3Dよりも、簡便な2Dで十分となってしまうのである。

<sup>†</sup> 情報工学科

Department of Computer Science and Technology





図1 ステレオ視による虎の形状計測（明るいほど距離に近い）

しかし、立体視技術の活用分野はアミューズメント分野ばかりではない。一例として医療分野があり、内視鏡手術において立体視が導入されている。映像を元に器具の操作をおこなう内視鏡手術では、立体視はまさになくてはならない映像表示方法である。このように遠隔操作をおこなう分野では、立体視が大いに活躍する。

### 3. 三次元計測と立体視

筆者が開発したステレオ視の手法は高速かつ正確な三次元計測を実現している。筆者の出身の中央大学情報工学科鈴木研究室では国立がん研究センターと協力して、このステレオ視の技術を利用し、立体内視鏡をさらに発展させるべく開発を続けている<sup>1)</sup>。従来の立体内視鏡は、内視鏡で得られた映像をそのまま医師の目に映すだけであるが、開発中の新方式は、内視鏡で得られた画像からステレオ視で内臓の形状を再現して表示する。形状を再現して表示するので、内視鏡を動かすことなく角度を変えて患部を観察することができる。すなわち、複数人が同時に別々の角度から患部を観察することができるのである。新方式は、実際に大学の最先端技術と産業界のマッチングを目的とするイノベーション・ジャパン<sup>2)</sup>での展示等を通じて、医師からも高い評価を受けている。

このように分野によっては十分に活用が見込まれる立体視技術であるが、より大きな技術の発展には、その裾野を広げることが欠かせない。立体視の有用性を広く周知するためには、やはり一般の消費者レベルで楽しめる意欲的な3Dコンテンツの開発が望まれるのである。

例えば、図1は多摩動物公園の虎をステレオ

視で形状計測したものであるが、動物のリアルタイムの形状計測ができれば、公開を控えている動物や、近寄ることができない動物などでも、現実の動きも含めて間近に手に取るように観察することができるようになる

### 4. サレジオから広がる3Dコンテンツ制作

新たな3Dコンテンツの可能性の発掘には、これまでの既成の考えにとらわれない斬新なアイデアの必要性を強く感じている。そういったアイデアの発掘には、やはり若い感性が必要となる。そこで、まだ個人的な構想の域を出ないが、筆者が持つ画像計測技術や画像処理技術を学生に提供することで、学生が意欲的に3Dコンテンツを開発できる環境を整備できないものかと構想している。また、持ち運び可能な3D計測スタジオシステムを作成するための基礎研究を実際に進めている。

さらには、サレジオ高専で制作された3Dコンテンツを広く公開することを目指したい。そうすることで、外部の人からも興味を持ってもらうことができ、そこから、「自分でもコンテンツを作成してみたい」という人が出てくれば、さらに様々なコンテンツが生み出されるという波及効果が生まれる。将来、そのような3Dコンテンツ作成の輪がサレジオ高専を中心に広がっていければ、と願っている。

### 文 献

- 1) 多視点裸眼立体内視鏡システム，特開 2012-65851
- 2) 任意ステレオ内視鏡手術動画深度計算下 4K 裸眼 3D 視  
<https://www.ij2018.jp/exhibitor/jss20180369.html>

# 内田百間と軽便鉄道

山館 順<sup>†</sup>

## Uchida Hyakken and Narrow-gauge railway

Jun YAMADATE<sup>†</sup>

### 1. はじめに

本稿では無類の鉄道好きとして知られた作家内田百間（本名栄造 1889-1971）の軽便鉄道に関する文章を検討し、軽便鉄道がどのように彼の心象を投影して描写されているか？また彼の内面に占める位置はどのようなものだったかを探った。

まず二十世紀初期の機械技術を象徴する鉄道について、作家がどのように見ていたのかを探るため広軌の鉄道関連の表現を検討、次に対照的に狭軌の軽便鉄道に関する文章から三つを選び出し、扱われた時代順に検討した。

日露戦争前後の岡山で旧制中、高校期に培われた「英雄崇拜の対象」としての幹線鉄道観は、彼の憧憬対象である分、自己の内面との距離があり、反対に頼りない存在である軽便鉄道に自分の内面をより色濃く投影させる傾向があった事を指摘する。

従来鉄道関連の百間文章評論は戦後「阿房列車」シリーズで描かれたような幹線鉄道が主対象だった。本稿では注目されて来なかった軽便鉄道に着目することで作家の内面に接近し、テクノロジーと作家の心性との関係を検討、結論として二十世紀の機械技術が人間の内面にもたらした心性の変容過程の一事例となる事を指摘する。

引用の旧字旧仮名遣いは適宜新字新仮名に改めた。

### 2. 百間の幹線鉄道観

#### 2.1. 生立ち

明治22年岡山市東郊古京町に生まれた百間は造り酒屋志保屋の跡取り息子の為過保護に育てられた。父久吉は一時生家を繁盛させ市商工会員となり

公務に携る一方、大阪北浜の三品取引所に出資、山陽ラムネ株主になるなど近代的な実業家を目指した。

しかし明治38年夏の終わりに45歳で父は早世、生家は没落したが、幸い祖母の隠居料のおかげで余裕があり、旧制岡山中学、六高を経て上京、帝大独文科を卒業して作家、文学研究者となる。

既に中学時代より夏目漱石に師事、大学時代には漱石山房に出入りし、芥川龍之介と共に漱石十大弟子中の若い世代に属した。

大正3年夏大学卒業後、既に所帯を持ち子もいたが就職先がなく、母と祖母、妻子と共に1年半徒食、大正5年1月より陸軍士官学校ドイツ語教官となる。後に海軍機関学校、法政大も兼務したが、大家族がスペイン風邪流行で寝込んだり学生を可愛がって寄食させたり、出費がかさみ後年の大貧乏の礎を築いた。<sup>1)</sup>

大正10年の初期代表作「冥途」は不気味な幻想短編集である。

その後家庭問題から家族と別居、語学教員から文筆業に転じた頃、昭和8年の「百鬼園随筆」が随筆ブームを起こすほどの人気となり、文章家として名をはせる。

昭和10年代には文章指南として日本郵船、東亜交通公社囑託、同14年には招待され台湾旅行、台湾で用事の無い無目的な汽車旅を楽しむ「阿房列車」に開眼したと戦後に回想している。

次節では中学から高校にかけての汽車好きを伝える文章「通過列車」を紹介、やがて阿房列車へと向かう彼の幹線鉄道観について先ず検討する。

#### 2.2. 青少年期の幹線鉄道観

昭和17年の文章「通過列車」では岡山を走る山陽鉄道を見物するため二里の道を自転車走らせた少年期を回想する。

<sup>†</sup> 一般教育科  
General education

「私は中学の上級から高等学校に這入った後までも度々その道を自転車に乗って西大寺駅まで出掛けた。」<sup>2)</sup>「遠くから轟轟と云う物音が風の響きの様に伝わって来る。響きが段段に近づいて、近づくと共に非常な勢いで大きくなる。改札の前の線路がかたかたと鳴り出す。つかまっている改札の柵がぴりぴりと振動し身体が揺られる様な気持ちのする目の前を大きな機関車が一瞬の間に通り過ぎる。(略) 又来て見ようと思う。」<sup>2)</sup>

岡山駅での一日一本 19 時 22 分の上り新橋行停車の様子は以下のとおり、「夕焼の雲を映した備中平野の水田の中を当時の第六列車が轟轟と進んで来る。(略) 岡山駅の上り歩廊の西端に櫓を組んで半鐘を釣してあった。上り急行が夕霧の掛った構内に近づいて来るとその半鐘が鳴り出す。(略) その時分ただ一本の急行列車が構内一帯に鳴り響く鐘の音につれて堂堂と歩廊に迫って来る光景は、田舎の駅を風のかたまりの如く走り抜ける大きな汽車と共に私の英雄崇拜の対象であった。」<sup>2)</sup>

父没年の明治 38 年は「吾輩は猫である」発表の年でもあるが、栄造は同年の夏目漱石短編集「漾虚集」が刊行されるとその感想文を地元の日陽新報に寄稿、同紙上に掲載された。

明治 42 年にはのちに「満韓ところどころ」として結実する中国東北旅行の途次、漱石乗車の下り列車が岡山に少時停車するとの情報を得て友人と二人で一等車内を二人で覗き、一人の客を勝手に漱石と決めつけて挨拶してくるという事もやった。

二等車を探しても写真のみで知る漱石らしい人は見当たらず、客がほとんどいない空いた一等車を覗くと、「しかし一等車にどうも少し怪しいのが一人いる。口髭を生やして、何だかそう思えば、写真のどれかに少し似ていた。(略) 「あれだろう」「そうらしい」「あれに違いない」「そうだ、あれに決めよう」」<sup>3)</sup> 実は漱石は乗車していなかったという落ちだが、百間にとり英雄の一人は漱石に他ならなかった。

田舎では文学少年気取りも上京後漱石山房に出入りするようになると同時代の日本の学問思潮を代表する兄弟子たちに取り囲まれた漱石に対

して「何年たっても、私は漱石先生に狎れ親しむことが出来なかった。」<sup>3)</sup> 「わたしは平生の饒舌にも似ず、先生の前に出ると、いつまでも校長さんの前に坐らされた様な、きぶっせいな気持ちが取れなかった。」<sup>3)</sup>

実際に接すると漱石は親しめる関係ではなく敬迎する高峰だった。漱石が車室に収まる幹線鉄道について、自分の内面を投影させ親近感と共に描写される存在ではなく、一種の他者として認識している事を指摘したい。

### 3. 百間と軽便鉄道

#### 3.1. 「漱石先生臨終記」

本章では百間の軽便鉄道に関する文章から代表的な三つを抽出、描かれた時期の内面に着目しながら、どのように描かれているか検討する。

「漱石先生臨終記」には大正 34 年頃家族を抱えて徒食、借金がかさみつつあった彼が、湯河原の旅館で療養中の漱石に金を借りに行く記事がある。

「小田原から小さな軽便鉄道に乗ったところが、満員で腰を掛ける事も出来ず、起っているには天井が低いから、頭がつかえて、中腰でゆらゆらしていると、線路の曲がり角で、よろめいて後に腰を掛けている人の上から腰を掛けてしまった。(略) 小さな気罐車はびいびいと云うばかりで、のろくて、坂を登る時は逆行しそうになった。坂を下る時、片側を見たら、切りそいだ様な崖で、そのすぐ下に迫って来る海は、恐ろしい淵の色をしていた。」<sup>3)</sup>

「段段暗くはなるし、お金はもう二十銭銀貨一枚しかないの、湯河原に着いてから、宿屋が遠かったら、どうしようかと思った。」<sup>3)</sup>

結局師は金を貸してくれた上温泉に一泊させてくれたのだが、往路での焦燥と不安が伝わって来る。

乗車した軽便鉄道の喘ぐような汽笛、混雑した車内、危険な断崖を怖々見下ろす眼差しが心細い心象と重なり効果を上げる。

小田原熱海間の軽便鉄道はそれ以前の人車の軌道をほぼそのまま踏襲する形で建設を急ぎ、明治 40 年に開通した。

工事の様子は芥川龍之介「トロッコ」(1922年)で描かれたが、百間の乗車は芥川作品の十年ほど前となる。

### 3.2. 「曾遊」

大正5年陸軍士官学校ドイツ語教師となり先に仙台第二高等学校に赴任した同科で同期の友人とふたり、石巻まで晩夏の仙北軽便鉄道に乗車した描写が「曾遊」<sup>4)</sup>「搔痒記」<sup>5)</sup>にある。

「小牛田と云う駅で、軽便鉄道に乗り換えた。そう云う駅の名前も東北らしく聞こえて、気の進まない私の旅愁をそぞろ様に思われた。もう何十年も昔の事で、軽便鉄道の汽罐車は、羅宇屋の笛の様な汽笛をびいびい鳴らしながら、何時までも走り続けた。(略)小さな汽車は、土手の陰を走りながら、夜になった。灯し火の稀な広野が真暗になっても、土手の向こうは、ほの白く明るかった。水明りだろうと思うと、急に淋しくなった。」<sup>4)</sup>

西国には見られない響き「こごた」の駅名、忍び寄る北国の秋冷と寂寥を感じさせる描写だが、二高に赴任した友人の年俸900円に対して、同期の百間は500円と約半分であり、また故郷岡山の六高就職を希望していた彼は、「私も自分の出た岡山の高等学校に決まりそうな雲行であったが、結局そのまま立ち消えになった。生徒だった当時、生田流の琴と俳句とに身を入れ過ぎて、学校をなまけ、三年生の時は殆ど毎日遅刻したので、そういう旧悪が邪魔になったのかもしれない。」<sup>5)</sup>、さらにスペイン風邪に罹患した家族の面倒もあって、気が進まなかった。

友人が就職後俄かに羽振りがよくなったのと比べて気後れする心情を、軽便鉄道車窓風景の寂寥に重ねている。

### 3.3. 「砂糖黍」

昭和8年「百鬼園隨筆」刊行後、百間の文章家としての地位は揺るぎないものとなり、同10年代には日本郵船嘱託として社内の文章指導に当たるなど活躍の場を広げ、一方13年には都会の幻想を描いた「東京日記」を発表した。<sup>6)</sup>

明治製糖重役中川の招きによる同14年11月

の台湾紀行「船の夢」には、製糖会社所有の貨客併用の軽便鉄道(ガソリンカー)である台南番子田線乗車を描写した「砂糖黍」<sup>7)</sup>、また「百間座談」に収録されて戦後になって刊行された「蓬莱島余談」<sup>8)</sup>がある。

「午後三時過ぎ、遠い夕風が肌を渡る様に思われ出した頃から、台南州麻豆本社の中川常務とガソリンカーに乗って出かけた。砂糖黍の海があって、その浅い底を這って行く様な気がした。途中でガソリンカーが故障して、迎えの代車が来る間暫らく砂糖黍の真只中に待っていたが、丁度その辺りで砂糖を貨車に積み込んでいた本島人が二三十人こちらを眺めて仕事の手を止めている。」<sup>7)</sup>

「纏まりのない自分の気持ちで眺めていると、砂糖黍が畑の奥から分かれて出て来て、傘をかぶり砂利を引っ掻き回して砂煙をあげているように思われた。」<sup>7)</sup>

「僕はこの連中が一揆でも起こしたら大変だと思った。一つ威武をふるってやろうと思った。尤も直ぐ僕がやられるから他人の興味は索きますまい」<sup>8)</sup>

戦後になっても夢に見るようだ懐かしみ、北端の基隆から台北を経て寝台車で南下したが、予定の台南で下車せずに、そのまま乗り続けて高雄を経由して終点の溪州に到り、数十分後同じ列車で溪州から台南近くの番子田まで引き返して軽便鉄道に乗り換え、製糖会社の本社前駅で会社の倶楽部に宿泊した。阿房列車の着想はこの旅において生まれた。

悠長な旅中にあっても砂糖黍が笠をかぶり一揆をおこす幻想に怯える姿は、繊細な知覚と過敏な神経が日常のささいな破綻を契機に突如現実世界に現れる異界を幻視しており、前年作「東京日記」との共通部分がある。

百間を幻想に導く橋渡しの役を果たしたのは気動車の軽便鉄道であり、南国の砂糖黍の海の中に取り残された心細さを投影しているが、「一揆」の表現には別種の不穏さも感じられる。

軽便鉄道関連の文章に共通するのは、幹線鉄道列車に対して以上に百間自身の内面の感情移入がしやすい存在だった事であり、内面の震え

や怯えを直接的に媒介する機能をはたしている事が見て取れる。

用事からひと時解放された台湾旅行において彼は無目的な乗車を楽しむ幹線の阿房列車を着想することが出来たのだが、この旅中でも軽便鉄道の乗車中の故障停車という些細な契機から不安が表面化する。

## まとめと課題

三つの文章を中心に百閒文学における軽便鉄道とは何かを検討した。

特に「臨終記」では山陽鉄道一等車に収まる漱石（とおぼしき人物）と、軽便鉄道でその「英雄」漱石に借金の無心にむかう自分を対比して広狭軌の違いを際立たせる。

初出年代を比較すると、同じ昭和9年だが後の時代を扱った「曾遊」が「臨終記」よりも数ヶ月発表が早い。

仮に執筆が発表の順番どおりとすれば、「曾遊」では自己の心象を投影した軽便鉄道というアイデアだったのが、「臨終記」においては広軌に乗る師漱石と対比させることで自分の心象をより明確化させた過程を見てとる事ができる。

軽便関連三文章とも乗車記である点も特徴的で、車外から眺める広軌の鉄道よりも自らの心象に近い存在として描写される。

広軌の安心感と狭軌の不安が交々到る台湾旅行において、ついには用事という語で表現される広軌の幹線鉄道に象徴される近代技術が必然的に持つ特性、具体的には実用性、目的性までもが意味を抜き取られて捨象される。

丸川哲史はいう、「百閒の「身体」に関わるアプローチは、半ば彼本人の体質に根差したものでありながら、矢張りテクノロジーの導入に促され、また己の身体自体が、そのような感覚 - 機械へと変成していくプロセスを示しているものと思われる。」<sup>9)</sup>

自己の変成していくプロセスをあたかも客体のように描写しているのも百閒の独自性である。

合理性の集積であるはずの近代技術の中に狐狸妖怪が棲み人を誑かすという論法は、テクノロジーを狐狸の姿になぞらえる事で対象化し、

テクノロジーの不可知がもたらす知覚の呪縛、意識の支配から免れようとしたものと考えることが出来、その切っ掛けを台湾で発見したのだろう。

読者と不可知の技術との間に本来存在する距離と不安感を再認識させ、それを伝統的、また民俗的な文化の産物である狐狸になぞらえて対象化することが、技術に捉われ振り回される現代人の心に束の間の得心と安堵をもたらす。

彼が読まれ続ける理由の一つではあるまいか？

近現代人の心性と技術がどのように関わりあうかを考える上で百閒文学は尚その意味を失っておらず示唆に富むものと考えられる。

それでは戦後の文章、特に阿房列車シリーズ以降において軽便鉄道はどのように扱われているのか、それとも本稿で示したような役割を演じ終え、最早言及されなくなるのか？

管見の限り阿房列車以降においては軽便鉄道の陰が薄い印象があるのだが、彼の内面の不安はようやく遠ざかったのか、今後の検討課題である。

## 文 献

- 1) 「新輯内田百閒全集」 33巻 p.195-7、年譜、1989年、福武書店
- 2) 「通過列車」 初出昭和17年11月「大和」、所収旺文社文庫「戻り道、新方丈記」1982年、p.76-9.
- 3) 「漱石先生臨終記」（以下「臨終記」と略記） 初出昭和9年12月号「中央公論」、所収旺文社文庫「鶴」1981年、p.98-112.
- 4) 「曾遊」 初出は昭和9年10月刊「無弦琴」、所収1981年、旺文社文庫版同書 p.93.
- 5) 「搔痒記」 初出は昭和9年9月「中央公論」、所収旺文社文庫「無弦琴」 p.106.
- 6) 「東京日記」 岩波文庫、1992年、
- 7) 「砂糖黍」、所収昭和16年「船の夢」、所収1982年旺文社文庫版同書 p.74.
- 8) 「蓬莱島余談」 昭和15年の対談抄録、所収福武文庫「百閒座談」1992年 p.136-7.
- 9) 丸川哲史「帝国の亡霊 - 日本文学の精神地図」 p.58.2004年青土社、

## コラム

- 【連載】「メディア」博物館探訪（第11回）日本ラジオ博物館（長野県松本市）  
一般教育科 山館 順
- 【連載】「メディア」博物館探訪（第12回）NHK 放送博物館（東京都港区）  
一般教育科 山館 順
- 【連載】図書館の本棚から（第11回）「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「サラサーテの盤」 -  
一般教育科 山館 順
- 【連載】図書館の本棚から（第12回）「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「特別阿房列車」  
一般教育科 山館 順



## 【連載】「メディア」博物館探訪（第11回）

### 日本ラジオ博物館（長野県松本市）

一般教育科 山館 順

早春の北アルプスが白嶺を連ねる長野県松本市、自分が訪ねたときは峰々を遠望しながら女鳥羽川沿いに土蔵を改装したラジオとその放送関連の専門博物館「日本ラジオ博物館」には膨大な収集、1920-90年代に及ぶ内外の機種が所狭しと並んでいた。館長岡部氏にお話を伺った。

放送開始直後のレシーバ受信による鉱石ラジオ、既に真空管使用機種もあったが、消費電力が大きく高価で庶民には手が出なかった。当時受信者側の需要の主は株式市況だったという。

国民のラジオ熱は高く、昭和10年頃までに県庁所在地以外も含め各県主要都市のほとんどで開局、各地の開局記念ポスターはモダンで軽快な意匠が多く、新しいメディアへの期待を物語る。

20年代には輸入機種が中心で後シャープになる早川電気等による国産機種は高価な割に低性能の状態だった。

30年代に戦時色が強まると共に時局報道と国民統制の目的でナチスドイツが実用化した低価格の「国民受信機」、また国産機種改善を目指して日本放送協会が実施した製作コンテストで優秀作となった坂本製作所の「コンドル」や松下電器の「ナショナル」製品が展示される。

ドイツの国民受信機は鷲の嘴から同心円状に電波が広がるデザインであり、宣伝相ゲッペルスの方策を支えたものである。日本においてもラジオが戦後の家電産業発展の先駆けの一つだったのは間違いない。

この頃までは各地に中小メーカーが多様な独自ブランドを製造していたが、戦時統制もあり次第に大企業に市場が統合され、またNHKによる局型認定ラジオが技術進展と品質安定に貢献した。

しかし開戦後は供給電圧の低下に悩み、これに対応するため無理につなげた真空管部品の故障が顕著となり、故障の頻発は受信者を苦しめた。

大戦末期に新聞記事が既にあてにならぬことを次第に悟った都市部大衆にとり、ラジオは唯一の迅速で比較的正確な情報源となったが、その威力が最大限に示されたのは終戦の玉音放送だった。

20年代の優美なアールデコ調から、30年代ドイツで流行した直線的な意匠、またアメリカ風の流線型等外装意匠だけでも多くのバリエーションがあり、短期間での意匠変化に大衆の求める者の姿が映し出されている。

放送番組と言うコンテンツ以上に受信機と言う実物をして語らしめる博物館の姿勢は、小規模ながら興味が尽きない施設となっている。

取敢えず博物館のHP記事を辿るだけでも20世紀前半を彩ったメディアの実像を生々しく伝えてくれる。技術と文化に関心ある人におすすめ。

#### 【日本ラジオ博物館】

- ・ 〒390-0811 長野県松本市中央 2-4-9 tel0263-36-2515
- ・ JR 松本駅より徒歩 10 分、四柱神社向い、松本駅よりバス 210 番、蔵の町中町下車徒歩 3 分、
- ・ 開館、午後 1:00-5:00、入館料大人 500 円、
- ・ 休館日、毎週月曜日、



## 【連載】「メディア」博物館探訪（第12回）

### NHK 放送博物館（東京都港区）

一般教育科 山館 順

「日本ラジオ博物館」が受信機というモノの技術を重視しているのに対し、こちらは放送番組というコンテンツも重要な柱とし、日本人と放送との関わり合いを総合的に展示、勿論 TV 関連も重要な柱である。

江戸時代から桜と紅葉の名所だった芝愛宕山、高度成長期以前は東京湾を望めた山上は現在タワーマンション群に隠れてしまったが、春秋の彩りはなお人心を慰める。

展示の中では「ヒストリーゾーン」の東京開局に至る経緯とその後が興味深かった。

大正十二年（1923）の関東大震災で流言の恐ろしさを感じた市民が新聞よりも迅速正確な情報源を求めた事が大きな契機となった事、開局までの数年間に東京周辺にも民間のラジオ製造と研究をおこなう民間工場が設立されたが、すでに先駆けとして大正初年、駒込の苦米地貢氏による「衆立無線研究所」が設立され、啓蒙活動を行っていた事など近代技術社会史の証言である。

大正十四年（1925）三月の愛宕山開局時の挨拶で協会長後藤新平は文化の機会均等、家庭生活の革新、教育の社会化、経済機能の敏活化を掲げ、同日午後には歌舞伎役者によるラジオドラマ「桐一葉」が放送された。初の現代劇「炭鉱の中」は同年8月放送であり、大衆向けメディアの性格を物語る。大みそかの「ゆく年くる年」は既に「除夜の鐘」の題で昭和二年に放送開始である。

しかし技術面では初期の鉱石ラジオは「感度地図」によれば高さ7.5 m、横13.5 mの大きな木のアンテナを立ててもなお都心での感度10が、八王子1、青梅0という有様だった。

ラジオが威力を発揮したのは昭和十一年（1936）の二・二六事件で反乱軍に投降を呼びかけた「兵に告ぐ」とされ、戦時の時局報道に用いられて需要を増し、この頃受信家庭200万戸を数えた。

TVの実験放送では昭和十五年（1940）初のTVドラマ「夕餉前」が制作され、都区内ではすでに珍奇な存在ではなかった。

昭和二十八年（1953）TV本放送開始以後、現平成天皇成婚、東京オリンピック等のイベントをつうじて受像機数は飛躍的に増加、本格的なTV時代となった。自分にとっても昭和四十年代の大河ドラマなど懐かしい展示もある。

平成になるとハイビジョン、多チャンネル化がすすんだが、PCやスマホの登場でTVメディアの持つ意味は相対的な地位の低下にさらされる。

番組内容の劣化が指摘される一方、阪神淡路、東日本震災等自然災害における情報伝達、避難指示の情報提供はむしろ娯楽以外の分野におけるTVの重要度を高めており、今後メディアとして如何にあるべきか？という重い問いを突き付けられており、我々は如何に放送とかわかってきたか、いやむしろいかに放送に振回されてきたかを考える上で不可欠の施設であるという事が出来る。

#### 【NHK 放送博物館】

- ・〒105-0002 港区愛宕2-1-1 tel 03-5400-6900 休館月、祝日の場合その翌日、無料、
- ・JR新橋駅下車徒歩20分、地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩8分、銀座線虎の門駅下車徒歩13分、都営三田線御成門駅下車徒歩10分、





## 【連載】図書館の本棚から（第11回）

### 「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「サラサーテの盤」

一般教科 山館 順（人文社会）

先ずは「ひゃっけん」という読めない筆名からも偏屈さが伝わる。本誌の別記事のとうり明治二十三年(1889)生まれの岡山の造り酒屋の一人息子栄造が、長じて漱石門下の十大弟子と称され、大正期に「冥途」等の夢幻を醸す短編小説を発表、やがて借金苦にあえぎ教職を離れて筆一本で立つようになると昭和初年の随筆ブームを巻き起こす。

空襲下を逃げまどいながらついに麹町の私邸から疎開せず自宅は被災全焼、数年間掘立小屋住まいとなり、この間の日記は「東京焼尽」にまとめられた。

戦後復興期には気ままで無目的な鉄道旅を愉しみ、「阿房列車」に結実、八十二歳の人生は波乱に富み俳句の他、詩、琴、酒を愛し、汽車以外にも船、飛行機、さらに音楽に対する鋭い感性で知られる。

百閒作品をあつめ彼の全容を知る良い手がかりが本書だが、最初は戦後間もない昭和二十三年作「サラサーテの盤」を紹介したい。

時は大正、「私」は大学同窓の中砂の招きで晩夏の東北をふたり旅する途中、三陸の寂しい港町で偶然同郷の美しい女性おふさと出会う。亡き先妻との娘きみこを抱えていた中砂は、「私」以上に熱を挙げておふさを妻に迎え入れ、東京郊外に転居したのちきみこと共に東の間幸福な暮らしを営む。

しかし折からの流行病で中砂自身あっけなく亡くなり、娘を抱えたおふさは亡き夫中砂から「私」が借りたままになっている古いレコードを返却してくれるよう、きみこを連れて幾度も訪ねてくる。

「宵の口は締め切った雨戸を外から叩く様子がたがた云わしていた風がいつの間にか止んで、気が付いてみると家の周りに何の物音もしない。しんと静まり返ったまま、もっと静かな所へ次第に沈み込んで行く様な気配である。」「坐っている頭の上の屋根の棟のてっぺんで小さな固い音がした。瓦の上を小石が転がっていると思った。ころころと云う音が次第に速くなってひさしに近づいた瞬間、はっとして身ぶるいがした。ひさしを滑って庭の土に落ちたと思ったら、落ちた音を聞くか聞かないかに総身の毛が一本立ちになるような気がした。」（一部仮名に改、以下も同）

取り立てて怪異が起こるわけでもないのに、ほんやりしていた意識が屋根を転がる小石の音に次第に研ぎ澄まされて緊張を高め、ついには恐怖が全身を走るに至る意識の流れを活写する。

「サラサーテの盤」とは「ツイゴイネルワイゼン」の作曲者として有名なバイオリン演奏家サラサーテ(1844-1904)のモノラル盤レコードに彼の声が聞き取れぬほどの小ささで偶然録音されてしまった珍品の事。

ようやく盤を探し出した「私」が返却に訪れた中砂の家でおふさはレコードをかける。

惑乱したおふさがサラサーテのつぶやくような声を亡夫の声と思い込んで「いえ。いえ、」「それは違います」と返事をする場面が終幕である。夫に先立たれた女性の悲しみとレコード盤の引き起こす内面の混乱とを描き出して印象深く、冒頭の文は晩秋初冬の東京郊外における季節感を表現して余すところがない。話の筋に起伏はないが、独特の怪異と哀しみが伝わる。

【ちくま日本文学1 内田百閒】

・筑摩書房 2007年 918ページ



## 【連載】図書館の本棚から（第12回）

### 「ちくま日本文学1 内田百閒」から、「特別阿房列車」

一般教科 山館 順（人文社会）

こちらは鉄道旅行エッセイの古典。昭和二十五年（1950）秋に国鉄職員「ヒマラヤ山系」と大阪一泊の鉄道旅の紀行だが、後を追うように高度成長期になると本作を範として阿川弘之（1920-2015）（作家、エッセイスト阿川佐和子の実父）の「南蛮阿房列車」や宮脇俊三（1926-2003）による一連の鉄道紀行が生まれたというだけでもその重要性がわかる。

戦災の後にようやく復活した国鉄特急「はと」に乗るための旅費の算段に始まり、妙に頑固な自分の言動を充分偏屈と承知の上で、若いヒマラヤ山系との掛け合いを演じる。

読者の中で鉄道趣味のある人ならばあるいは何処かで冒頭の以下の一文を読まれた方もいるかもしれない。

「阿房というのは、人の思惑に調子を合わせてそういうだけの話で、自分でもちろん阿房だなどと考へてはいない。用事がなければどこへも行っていけないというわけではない。なんにも用事がないけれど、汽車に乗って大阪へ行って来ようと思う。」

「自分は五十になった時分から、これからは一等でなければ乗らないと決めた。そう決めても、お金がなくて用事が出来れば止むを得ないから、三等に乗るかもしれない。しかしどっちつかずの曖昧な二等には乗りたくない。二等に乗っている人の顔付きは嫌いである。」

出発前午前中というのに東京駅の丸の内南口の精養軒で一棧を傾けたり、発車後には展望車、そして食堂車で寛いだり、やがて静岡西方の遠州灘の辺りでは、「ほんやりして窓の外の景色を眺めていると、汽車が何だか止まりがつかなくなった様に走って行って、そうして時間がたつ。遠くの野の果てに、見えないけれど荒い砂浜があって、その先に遠州灘がひろがっていると思われる見当の空に、どことなく夕の色が流れている。」

見えない風景を遠く窓外の秋空に映った海あかりの色から感じとる想像力には凄味があり、後年に作家で俳人の江國滋は「一言でいえば、感性の異常発達」と評した。

「お酒を飲んでいるとじきに日が暮れかかった。外のあかりが、ちっ、ちっ、と飛んで、その度に音がしている様な気がする。汽車は夕闇の中を、もっと暗い所へ突っ込んで行こうとしている様で非常な速さで引っ張って走る。」

名古屋の手前では「随分大きな駅をどんどん飛ばしているが、そういう所のちらちらするあかりが、棒のように長くなって飛んで行った。胸がすく様であった。」

無目的な旅でありながら、作者の観察は鋭く世相を映し出し油断ならない。

東京発車直後頼りない徐行運転だった電気機関車が新橋辺りで速度を増すと「山系が椅子から身を乗り出して、窓の外を眺めている。『どう』と聞いたら、『やれますね』と云った。」

短い会話に復活したばかりの特急に対する期待と不安、国鉄職員としての誇りがのぞき、それは未だよちよち歩きの新しい戦後日本社会のそれと重なる。

折しも復興景気のさ中、日本中が用事にかまけている最中に目的をもうけず、ひたすら車窓の風光に目を凝らし耳を傾ける旅、これほどの贅沢はないだろう。かといって百閒自身人世の荒波を潜り抜け、文章には哀歎と客観が見事に同居しており、鉄道旅に留まらない深みを読者に味わわせてくれる。

【ちくま日本文学1 内田百閒】

・筑摩書房 2007年 918 ちく1



## メディアを歩く

東京にある「西郷どん」の痕跡 (1) 靖国神社にみる〈薄情な〉薩長同盟

電気工学科 米澤一孝

東京にある「西郷どん」の痕跡 (2) 大田区洗足池畔 西郷隆盛の留魂碑

電気工学科 米澤一孝



## 東京にある「西郷どん」の痕跡 (1)

### 靖国神社にみる〈薄情な〉薩長同盟

電気工学科 米澤 一孝

2018年のNHK大河ドラマの主人公は西郷南州隆盛ですが、西南の役で自死した西郷が、数々の戦争の英雄たちが祀られている靖国神社の一員に加えられていないのは意外に知られていないかもしれません。なぜそのようなことになったのでしょうか？

靖国神社オフィシャルホームページによると、靖国神社は「明治天皇の思召しによって建てられた招魂社がそのはじまり」で「国家のために尊い命を捧げられた人々の御霊（みたま）を慰め、その事績を永く後世に伝える」神社だと言われています。幕末から明治初頭にかけての国家のための戦い、とは、すなわち「打倒、徳川幕府」であるため、靖国には、戊辰戦争、佐賀の乱、西南の役における「戦死者」だけでなく、明治維新以前になくなった吉田松陰や高杉晋作らも討幕運動により死亡した「殉難者」として祀られています。



桜山神社（筆者撮影）

であるならば、西郷が祀られていないのはますます疑問に思えますが、靖国神社は、天皇のために戦死したものを祀る神社であるため、官軍すなわち天皇の軍隊に反旗を翻した薩摩（現鹿児島県）軍の大將すなわち西郷を合祀するわけにはいかないから、という説明はつきます。

ところが、その基準では説明のつかない合祀があります。「禁門の変」での戦死者合祀がその一つ。「禁門の変」は、元治元年に長州（現山口県）藩士主導で、京都焦土化による山口への天皇移送計画を実行しようとするも、会津藩士や薩摩藩士を率いた西郷らの働きにより失敗したあげくに、長州藩が「朝敵」すなわち「反」天皇軍と認定された事件ですから、西郷が祀られない以上、長州側の人間は合祀されるはずがありません。ところが、現在、その際戦死した久坂玄瑞ら長州藩士が数多く合祀されています。「禁門の変」ののち、西郷と長州藩の桂小五郎が互いに過去を水に流すことにして、薩長同盟を結んだにもかかわらず、明治に入って西郷を仲間はずれにするのは薄情に思えます。

西郷に限らず、合祀された方々を見ると、長州藩出身者と薩摩藩など他藩出身者との靖国合祀基準に開きがあるように思えます。その理由は、

- ・ 神社の敷地が「長州藩士」桂小五郎が師範代をしていた練兵館跡地である。
- ・ 日本初の招魂社は、山口県下関市に創建された桜山招魂社（現 桜山神社）である。
- ・ 初代宮司、青山清は「山口県萩市」出身である。
- ・ 靖国の参道に立つ銅像のモデルは「長州藩士」大村益次郎で、大村は神社設計の中心メンバーである。etc.

このように、靖国神社には長州藩が大きく関わっており、それゆえ、旧長州藩の意向が神社の性格に色濃く反映していると推測するのは容易でしょう。

ちなみに、山口県内に残存する旧招魂社の多くで、社殿の隣に、合祀された一人一柱の「氏名」「享年」「死亡した「年月日や場所」などが刻まれている石碑群を見ることが出来ます。「事績を長く後世に伝える」ため、生きた証を石碑に刻み込む招魂社のあり方は、靖国神社の性格に大きく影響していると思われるのですが、それはさておき、西南の役が終結した直後より、西郷を悼む声は少なからずあったのです。

参考文献 『靖国神社百年史 資料篇 上』1983。



## 東京にある「西郷どん」の痕跡 (2)

### 大田区洗足池畔 西郷隆盛の留魂碑

電気工学科 米澤 一孝

西郷隆盛は、いまだに靖国神社の仲間には入れないものの、東京には西郷を偲ぶための施設があります。最も有名なものは上野公園にある犬をつれた銅像でしょう。

ですが、ここでは、ほとんど忘れ去られているものの、上野の銅像よりも、西郷への思いがはるかに強く感じられる施設を紹介したいと思います。それは、東京都大田区の洗足池にひっそりと佇む、西郷の魂を「招」くのではなく魂が「留」まる「留魂碑」(右写真)です。西郷の死からわずか2年後に創られました。表面には西郷の誌が刻まれていて、その一節に「願留魂魄護皇城」とあります。「できることなら、死んでも、わたしの魂をこの世に留めて、天子さまの皇城をお護りしたい。」(施設内の案内文より引用)という意味です。「留魂」の由来となったこの一節から、西郷が勤王志士と自任していたことがわかりますが、吉田松陰の遺書「留魂録」を想起する方もいるでしょう。



西郷隆盛留魂碑 (筆者撮影)

また、その敷地には、石碑のほか鳥居や社殿もあるため、ここを西郷を祀る目的で創建された「留魂社」あるいは東京の「南州神社」と呼んでいいように思えます。「南州神社」と呼ばれる施設は、2018年現在で鹿児島、宮崎、山形に合計5つあるそうですが、長州側、すなわち山口県内に現存する22の招魂社のうち、一人のみを祀る招魂社は2社のみで、他はすべて集団で「戦死者」や「殉難者」を祀る形式をとっているのとは対照的です。

さて、この碑を作らせたのは、幕臣として新政府軍側の西郷と会談し、江戸無血開城を成功させた勝海舟その人で、この「東京南州神社」は、勝の墓の隣に建てられています。元々は葛飾区の浄光寺に建てられていました。ただ、明治中頃には、西郷の遺児が成長したことや、上野に堂々たる像が建てられるなど、社会的にも西郷の名誉が回復していたこともあって、勝自身は留魂碑を後世に残す必要はないと考えていたようですが、勝の没後、荒川放水路工事による浄光寺移転の前に、現在の地に移築されたために両雄が並び立つこととなりました。

石碑の裏面にある勝の漢詩に「嗚呼君能知我 而知君亦若我」とあります。「君 (=西郷、筆者註) はよくわたし (=勝、筆者註) のことを知り、そして君を知ることでは、わたしにかなうものはあるまい。」(施設内の案内文より引用) という意味です。この一節からも勝の西郷への思いをうかがい知ることが出来ます。

それにしても、勝が西郷追悼のためにあえて「願留魂魄護皇城」という詩を選んだことに、どんな意味があったのでしょうか？ 勝は、西南の役以降も西郷を絶賛し続けた一方、伊藤博文ら長州閥の政治家やその手法を酷評し続けたことから分かります。勝は長州藩出身者中心の政治に対し批判的でした。西郷の留魂祠は、長州閥神社と化した靖国神社に対する勝海舟流の皮肉ととるのは邪推が過ぎるでしょうか？

参考文献 『靖国神社百年史 資料篇 上』、1983 松浦玲『勝海舟と西郷隆盛』岩波新書、2011



## 資料編

### 各種データ

#### [1] 図書館・情報館関連

- (1) 入館者数
- (2) 図書館蔵書冊数
- (3) 図書館貸出冊数
  - (a) 分野別貸出冊数
  - (b) 月別貸出冊数
- (4) PC 教室利用状況  
PC 教室（122, 123 室）利用状況



## 1. 各種データ

### [1] 図書館・情報館関連

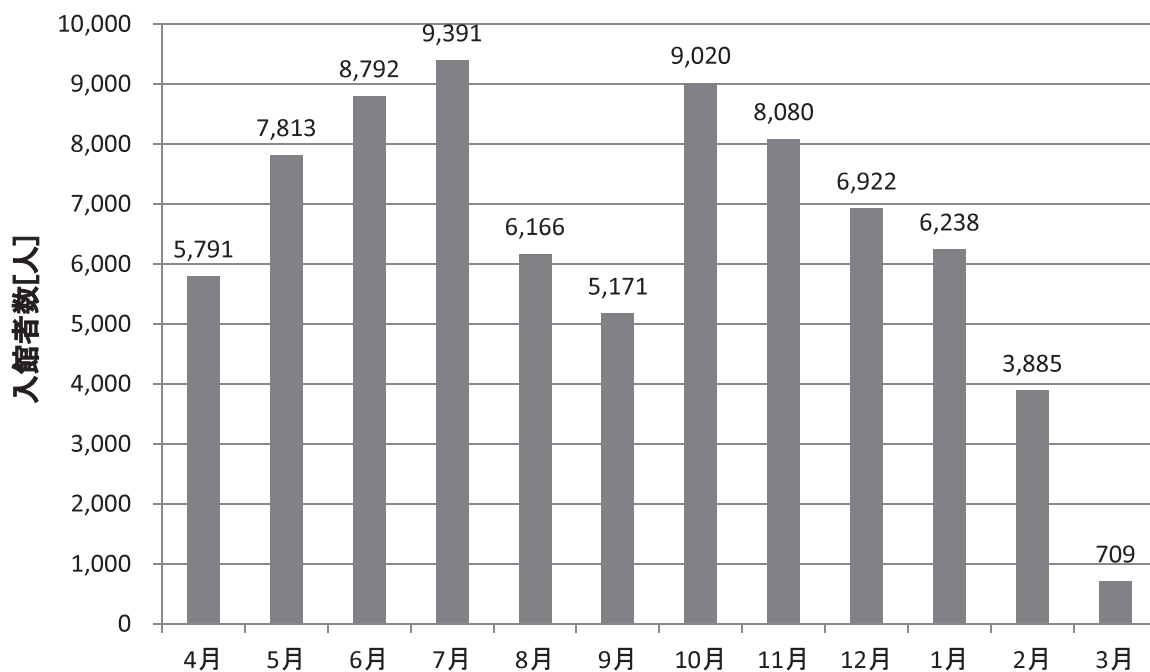
#### (1) 入館者数

2017年度開館日数 240日

2017年度入館者総数 77,975人

月	入館者数 [人]
4月	5,791
5月	7,813
6月	8,792
7月	9,391
8月	6,166
9月	5,171
10月	9,020
11月	8,080
12月	6,922
1月	6,238
2月	3,885
3月	709
計	77,975

月別メディアセンター入館者数

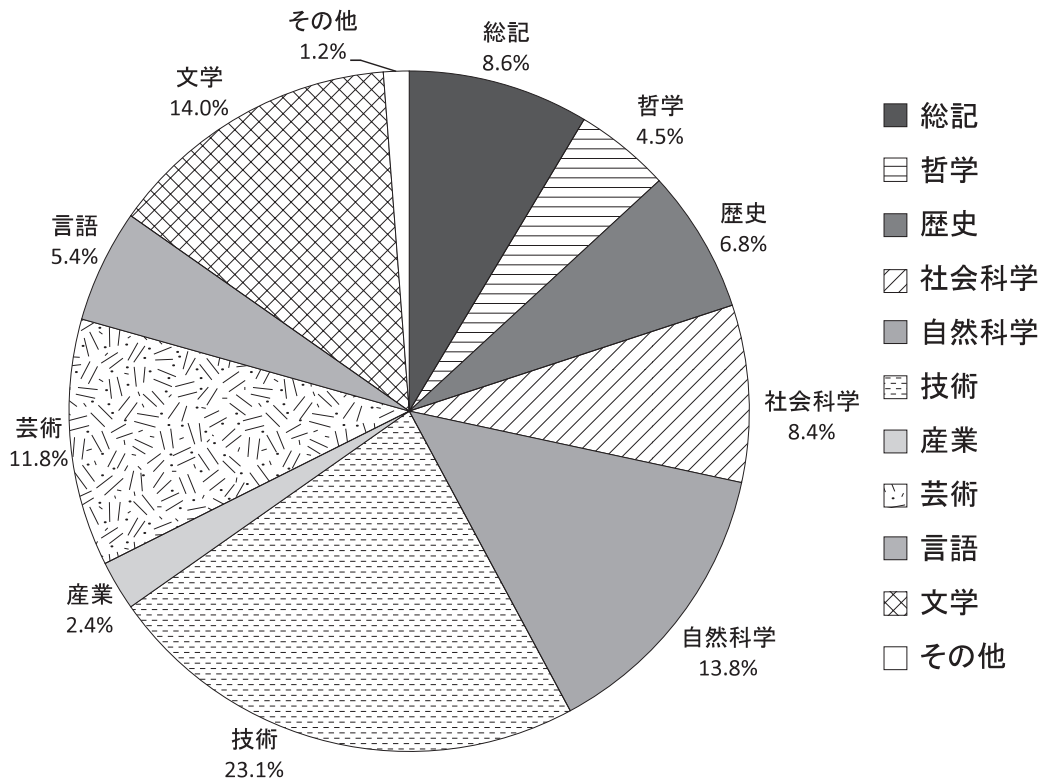


(2) 図書館蔵書冊数

2017年度 蔵書冊数

分野	蔵書冊数 [冊]	百分率 [%]
総記	4,380	8.6
哲学	2,317	4.5
歴史	3,467	6.8
社会科学	4,285	8.4
自然科学	7,017	13.8
技術	11,767	23.1
産業	1,198	2.4
芸術	5,990	11.8
言語	2,740	5.4
文学	7,144	14.0
その他	620	1.2
合計	50,925	100.0

分野別蔵書冊数

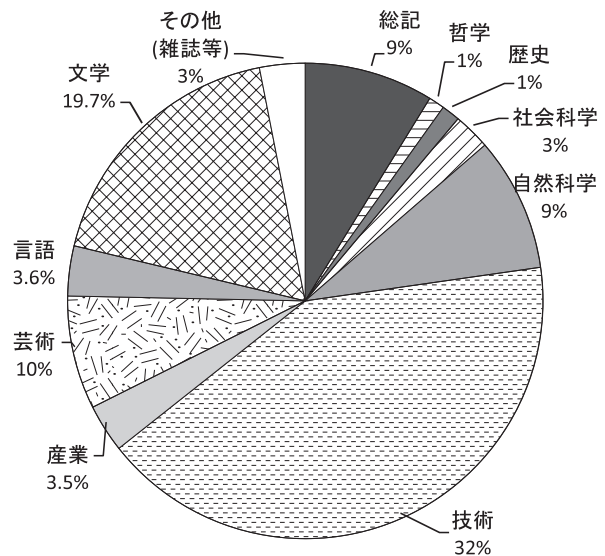


(3) 図書貸出冊数

(a) 分野別貸出冊数

2017 年度

分野	貸出冊数 [冊]	百分率 [%]
総記	411	8.8%
哲学	51	1.1%
歴史	58	1.2%
社会科学	118	2.5%
自然科学	427	9.1%
技術	1,948	41.6%
産業	153	3.3%
芸術	361	7.7%
言語	159	3.4%
文学	851	18.2%
その他 (雑誌等)	145	3.1%
合計	4,682	100.0%



(b) 月別貸出冊数

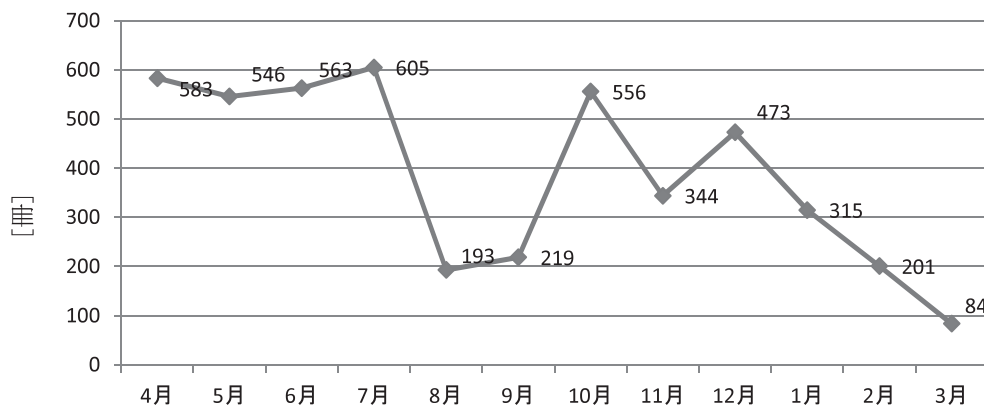
2017 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
冊数	583	546	563	605	193	219	556	344	473	315	201	84

※貸出総冊数 4,682 冊

内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生	471	455	500	503	143	174	499	297	421	268	177	70
専攻科	24	30	29	42	18	15	20	21	18	20	5	1
教職員	75	58	34	60	32	30	35	26	34	27	19	13
研究生	12	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	583	546	563	605	193	219	556	344	473	315	201	84



## (4) PC 教室利用状況

## PC 教室 (122 室) 利用状況

## 2017 年度

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	3～4限目	1 D	情報倫理	米山	
火	1～2限目	1 A	情報倫理	米山	
火	3～4限目	1 C	情報倫理	米山	
火	5～6限目	4 C S	統計解析学Ⅰ	川岸	前期のみ
火	5～6限目	4 C S	統計解析学Ⅱ	川岸	後期のみ
水	1～2限目	2 ME	機械加工	坂口	
水	3～4限目	1 B	情報倫理	米山	
木	1～2限目	1 E E	CAD	井組	
木	3～4限目	3 E E	創造設計	井組	後期のみ
木	7～8限目	3 C S	文書作成概論Ⅱ	山野辺	後期のみ
金	1～2限目	3 ME	計算機援用設計	稲毛/黒木	
金	5～6限目	3 C S	計算機概論Ⅱ	内田	後期のみ

## PC 教室 (123 室) 利用状況

## 2017 年度

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
火	1～2限目	2 C S	プログラミング基礎Ⅱ	大墨	前期のみ
火	1～2限目	2 C S	プログラミング基礎Ⅲ	大墨	後期のみ
火	3～4限目	3 E E	情報処理	風間	
火	7～8限目	3 C S	アルゴリズム論Ⅰ	大墨	前期のみ
火	7～8限目	3 C S	アルゴリズム論Ⅱ	大墨	後期のみ
水	1～2限目	2 A D	情報処理	西野	
水	3～4限目	4・5年選択	映像メディア概論B	松谷	後期のみ
水	5～6限目	4 C S	数値計算Ⅰ	大墨	前期のみ
水	5～6限目	4 C S	数値計算Ⅱ	大墨	後期のみ
水	7～8限目	5 C S	ソフトウェア工学Ⅱ	大墨	後期のみ
木	5～6限目	3 C S	文書作成概論Ⅰ	山野辺	前期のみ
金	5～6限目	5 C S	プログラミング応用Ⅲ	大墨	前期のみ
金	5～6限目	5 C S	プログラミング応用Ⅳ	大墨	後期のみ
金	7～8限目	3 ME	アルゴリズム理論	大墨	

## 編集後記

総合メディアセンター報 8号をお届けします。

昨年度は残念ながら欠号となりましたが、その分8号は専任・非常勤・学生を問わず若手の先生方のご活躍が顕著な号となりました。

諸学問に対する興味と関心を如何に学生に呼び起こし、彼らの問題意識を引き出すか？それは教職員にとり古くて新しい永遠のアポリアでもあります。

日日の教育研究活動の中から先生方ご自身が興味をお持ちになっている分野について、平易に解き明かしてくれる時、学生の内面には何らかの前進と意欲が見られるものと思っていますが、今号にはそうした生気がみなぎっているように思えます。また、本科学生からも二本を掲載しました。

文系理系を問わず各方面からの投稿記事が豊かなバリエーションを生み出しているのも本誌の特徴であり、此れもまた発揮されているものと存じます。

陽春の候今号を手にとっていただいた皆様に、都内多摩の一隅にユニークな私立工業高等専門学校が存在することを再認識していただければ望外の喜びでもあります。

2019年春

総合メディアセンター報 編集長 山館 順

総合メディアセンター報 第8号

平成 31(2019)年 3月 31日 発行

編集発行 サレジオ工業高等専門学校 総合メディアセンター  
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8  
Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

印刷所 株式会社 芳文社  
〒194-0037 東京都町田市木曾西 2-3-14  
Tel. 042-792-3100 Fax. 042-792-3162